

令和3年度事業報告書

1 基本方針

(1) 自然環境の保全及び活用

名古屋市民御岳休暇村（以下「休暇村」という。）は、御嶽山の麓、自然環境に恵まれ、市民生活を支える水源の木曾川上流域に立地しています。この市民の貴重な財産である広大な自然環境の保全と活用を図りながら、市民や地元と協働して事業を進めました。

(2) 自然体験や環境学習主体の事業運営

豊かな自然を活用した体験事業や環境学習プログラムにより、市民の心身のリフレッシュや健康増進の支援を行うとともに、青少年の健全育成に寄与しました。

(3) 利用促進と効率的な経営

自然体験企画等の充実及び効果的な広報の実施により利用促進に努めるとともに、業務委託の導入等により経費削減を図り、効率的な経営に努めました。

2 事業の実施状況

(1) 公益目的事業

近年、環境に対する関心は非常に高くなり、また余暇に対する考え方や価値観も大きく変化しているなか、公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社（以下「公社」という。）は、恵まれた自然環境を活用し、休暇村を利用される方々に対して自然体験や環境学習など様々な事業を提供しました。

ア 自然体験事業

休暇村敷地内のヒノキやカラマツなど50ヘクタールに及ぶ人工林の間伐、枝打ち、広葉樹の植樹などの森林整備を地域や木曾川下流域の市民と協働で進める「市民の森づくり事業」を実施するほか、国・長野県の補助事業を活用して設置した「王滝百草の森」の整備を地元王滝村の協力を得て進めるとともに、水源涵養や地球温暖化防止(CO2削減)、生物多様性など森林が果たす機能と重要性について学ぶことができる森林体験学習などサステイナブルな活動を推進しました。

「市民の森づくり事業」では、名古屋葵ライオンズクラブ、名古屋市、王滝村及び公社の共催により、例年、休暇村内において植樹祭を開催していましたが、昨年同様、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、名古屋市民の県をまたいだ移動を伴う休暇村での植樹祭の代替事業として、9月4日に名古屋の金山総合駅連絡橋イベント広場を会場とした「おんたけ休暇村『市民の森・葵の森』PRデー」の開催を予定しておりましたが、愛知県に緊急事態宣言が発令されたことを受けて中止となりました。

また、地元の協力を得て、遊休農地を利用した農業体験、木曾地方に伝わる食物を始め伝統文化等の体験事業や食育を進めました。

イ 青少年健全育成事業

小・中学生を始め青少年が自然の中での集団生活や自然体験活動を行うことにより、自然環境に対する感動や創造性を育む「豊かな心」を醸成し、生命の大切さや人権の尊重など道徳性の涵養を身につけることを目的とした青少年の健全育成事業を、大学生のボランティア「キャンプカウンセラー」や特定非営利活動法人(NPO法人)とともに進めました。

ウ 健康増進支援事業

森林浴や高地ウォーキング、温泉療養、薬膳料理の提供など豊かな自然環境を活用したプログラムの提供により市民の健康増進を支援しました。

(2) 収益事業

ア 施設貸与及び飲食販売事業

名古屋市から遠く離れた休暇村で行われる様々な体験活動等に参加するには宿泊が欠かせないため、宿泊に伴う施設貸与や飲食提供を行うとともに土産物等の販売を行いました。

イ 旅客自動車運送事業

交通アクセスが良くない休暇村利用において、自家用自動車を持たない人や高齢者が体験活動に参加いただけるよう貸切バスによる名古屋・休暇村間の送迎を行いました。

3 利用状況

令和3年度に環境保全活動や自然体験活動に参加された方は、延べ12,066人で令和2年度との比較では2,380人の増加となりました。事業参加者の内訳は、植樹・下草刈りなどの森づくりや森林学習、植物・昆虫観察や登山、農業体験などの自然体験事業参加者338人、小中学生の野外活動など青少年健全育成事業参加者348人、ウォーキングや森林浴、温泉浴などの健康増進支援事業参加者642人、食の体験館や天文館等の利用者1,908人で、公社主催事業の延べ参加人員は3,236人でした。これら主催事業のほか、キャンプ技術や野外活動、登山、自然体験学習など公社からの支援を受けられた方は8,830人でした。

なお、休暇村利用者のうち、セントラル・ロッジ及びキャンプ場宿泊者は5,700人で、このうちセントラル・ロッジ宿泊者は5,059人でした。一方、キャンプ場の宿泊者は641人で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、こども村キャンプは今年度も1回のみで開催となりました。また、旅客自動車運送事業による貸切バスの輸送実績は、77回、1,164人で、旅行業の取扱実績は、32回、496人でした。

4 事業参加者促進への取組み

平成29年6月に長野県南部で発生した地震の影響により、セントラル・ロッジがおおよそ3年間の休館を経て、令和2年6月8日に再開館しました。令和3年度は、

コロナ禍にはありますが、利用促進に向けて次のとおり取り組みました。

(1) 広報・PR

ア 各種イベントにおける広報

区民まつりや水フェスタなど、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止となったイベントには出展することができませんでしたが、感染症の拡大状況を確認しつつ、5月に金山総合駅連絡橋のイベントや東山動植物園秋まつりなどに出展しPRを行いました。

イ 事業案内パンフレットを活用したPR

リピーター客を呼び戻すため、事業案内パンフレットを同封したダイレクトメールを送ったほか、市内各区の区政協力委員協議会定例会でのPR、各区役所・支所の情報コーナーやスポーツセンター、生涯学習センター、図書館、児童館、福祉会館といった公共施設等へのパンフレットの配架を行いました。

ウ 広報媒体の活用

昨年に引き続き、名古屋市営地下鉄名城線の車両扉に休暇村のPRステッカーを掲出したほか、広報なごや、各マスコミなどへの事業プランの案内等の情報提供を行いました。また、市民の皆様に親しんでいただけるよう、公式ウェブサイトの一部改修を行いました。

エ スポーツに特化した誘客

自転車やトレイルランなどのレースや高地トレーニングといったスポーツに特化した観光誘致・PRを木曾おんたけ観光局とともに関係団体に対して行いました。

(2) 事業の充実等

ア 休暇村の利用促進と公社の財政基盤を強化するため、賛助会員制度の効果的な運用を図り、会員の募集に努めました。

イ 御嶽古道や瀬戸川国有林、御嶽の星空など地元で埋もれている観光資源や歴史的資源の掘り起こしと活用を図ることで、ここでしか体験することのできない「オンリーワンの楽しみ方」の企画事業を実施しました。

ウ リピーター客のさらなる増加に向けて、地元食材を用いた食事メニューを充実させました。

エ 地元の有識者や技術継承者、農林業経験者などの協力を得て、自然環境や文化・歴史等を対象にした体験企画を実施するなど、参加者の満足度を一層高めました。

オ 森林浴や温泉浴、高地効果や転地効果など休暇村の特異な立地条件を活用した滞在型の健康増進支援プランを提供しました。

カ 貸切バス経営のメリットを生かした名古屋・休暇村間送迎の体験企画メニューを実施しました。

5 利用の環境整備等

- (1) 2026年に愛知・名古屋で開催予定の「アジア競技大会」を見据え、競技団体、王滝村や木曽おんたけ観光局など関係機関と協議しながら、ゼミ合宿やスポーツ・サークル合宿、高地トレーニングなどの利用受け入れの環境整備について検討を行いました。
- (2) 高齢者や障害者も安心して自然の中で憩いの時を過ごすことができるよう、遊歩道の整備を始め村内整備を進めました。
- (3) 森林浴や温泉浴による「憩いと癒し」や豊富な自然を利用して非日常を体感し、リフレッシュすることができる宿泊型体験施設として整備を進めました。

6 地域への貢献と連携

名古屋市から離れた地にある休暇村で様々な事業を展開するには、王滝村を始め地元の協力が不可欠であるため、地元で行われる各種行事や奉仕活動への積極的な参加、観光振興イベントへの協力を行うなど地域との信頼関係の構築に努めました。

- (1) 地域の自然景観、文化・歴史、産業・技術などの資源を活用し、観光による豊かな地域づくりと地域経済の活性化を目的に王滝村や木曽町、木曽おんたけ観光局等が進める「世界水準の滞在型観光地づくり」への協力
- (2) 王滝観光総合事務所やスキー場などが行う観光振興イベントとの連携
- (3) 地域の自然や歴史、文化、産業などの積極的な紹介と体験プログラム等の実施による相互交流
- (4) 王滝村地域おこし協力隊との連携により、観光資源の掘り起こしや観光商品の開発、下流域との交流人口や関係人口を増加させるなど地域の活性化への取組
- (5) 地域の環境保全・整備事業及び奉仕活動への参加協力

7 環境保全への取組

市民の貴重な財産である休暇村の広大な自然の保護等環境保全に努めました。

- (1) 長野県林業総合センターや森林管理署などによる技術指導や林業経験者の協力を得て、間伐・植樹・下草刈り・炭焼きなどを行う市民の森づくり事業を実施し、水源涵養や地球温暖化防止（CO2の削減）に努めました。
- (2) 長野県や王滝村、有識者の協力を得て、村内に生息するササユリやラン、クマタカや、昆虫類など希少な生物等の保全活動に取組みました。
- (3) 信州省エネパトロール隊の提言に基づく、省エネ、温室効果ガスの削減など環境改善へ取組みました。
- (4) 生態系に及ぼす影響が懸念されている海洋プラスチックゴミ問題を解決する取組として、レジ袋やストローなどのプラスチック素材からの代替えを進めました。
- (5) 廃棄物の発生抑制（リデュース）とリサイクルを推進しました。

8 安全対策

(1) 施設の保全

ア 建物・機械設備等は、保守点検及び法定点検のほか日常点検を欠かさずに行い、性能の維持管理に努めるとともに利用者の安全確保に努めました。

イ 道路、遊歩道、橋梁、駐車場のほか村内敷地の日常点検を行い、適正かつ安全な状態を維持しました。

(2) 事故、災害対策

ア 防火対策委員会・自衛消防組織による火災等災害の予防、防災設備の改善計画策定及び防災意識の高揚と啓発活動を実施しました。

イ 危機管理マニュアルに基づき、事故や盗難、破壊等犯罪の発生の警戒、防止及び日常の保安警備を実施しました。

ウ ノロウィルスなどによる感染症や食中毒防止、レジオネラ属菌対策など衛生管理を徹底しました。

エ 新型コロナウイルス感染症対策として、職員は検温、消毒液による手指消毒、マスク着用を徹底するほか、利用者に対しても検温、消毒など協力を求めました。また、客室が密にならないよう配慮したほか、食堂については、アクリル板の設置や席数の制限などを行いました。

オ 自動車事故防止のため、車両の日常点検の実施と運行管理者及び整備管理者による安全な運行管理を行いました。

カ 熊や猪などの害獣による事故の未然防止策を講じました。

(3) 個人情報の保護

公社が保有する情報に対して保護対策が十分か定期的に点検し、適切な保護対策を講じました。

ア 個人情報に対する取扱いや職員の責務についての意識向上を図りました。

イ 個人情報が記載されている文書は、盗難、災害等による情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するため厳格な管理をしました。

ウ 電子情報に対しては、人的情報保護対策及び技術的情報保護対策を講じ、情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するとともに、ネットワークや情報システム、コンピューターへ不正なソフトウェアの侵入、感染又は、不正なアクセス行為を防止するための措置を講じました。

9 職員の資質向上及び職場環境の改善

(1) 市民が自然の中で行う様々な体験活動や森林・温泉などの自然環境を活用した健康増進の支援を行うため、事業に必要な各種資格等の取得に努めるとともに知識・技術の向上研修や業務研修を実施しました。

(2) 市民生活を支える水源の木曽川上流域に位置する休暇村の自然環境を保護し、活用するため、森林整備や自然環境保全の知識や技術の取得向上研修を実施し

ました。

- (3) 職員一人ひとりが意欲を持って、ハラスメントがなく、働きやすい職場環境づくりを目指し、管理職に対する研修を実施しました。

10 長野県南部で発生した地震及び御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取り組み

(1) 長野県南部で発生した地震の影響と今後の見通し

平成 29 年 6 月 25 日に発生した木曾町を震源とする地震の被害により、セントラル・ロジが約 3 年間休館したブランクの影響もあって、団体利用の回復が十分ではなく、また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和 3 年度前期は厳しい営業成績となりました。今後は、これまでご利用をいただいているリピーターの皆様に働きかけを続けるほか、団体利用を中心に新たな利用者層の獲得に向けた取り組みを行い、御嶽山噴火前の平成 25 年度利用実績 20,000 人(セントラル・ロジ 15,000 人, キャンプ場 5,000 人) を目標に掲げて職員一丸となって、さらに取り組んでまいります。

(2) 御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取り組み

平成 26 年 9 月 27 日に発生した御嶽山噴火の後、王滝口登山道は、御嶽山七合目の田の原天然公園から上部が入山規制されていましたが、平成 29 年 8 月 21 日には噴火警戒レベルが 1 (活火山であることに留意) に引き下げられました。王滝口登山道は「王滝頂上山荘」を避難所に改修し、令和 2 年 7 月に王滝頂上までの入山が可能となりましたが、火山性地震の増加がみられたことから、令和 4 年 2 月 23 日に噴火警戒レベルが 2 (火口周辺規制) に引き上げられました。

今後も引き続き御岳山の状況に注視しながら、状況に応じて、地元自治体や観光関連団体との連携や名古屋市の協力を得ながら、利用者の V 字回復に努めてまいります。

11 評議員会の開催

令和 3 年度の評議員会は次のとおりで、各議案とも原案どおり決議され、または承認されました。

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| (1) 日 時 | 令和 3 年 5 月 31 日 (書面による決議) |
| 議 案 | 令和 2 年度事業報告及び決算の承認について |
| 〃 | 評議員の選任について |
| 〃 | 理事の選任について |
| 議 案 | 監事の選任について |
| 報 告 | 令和 3 年度事業計画及び収支予算について |
| 〃 | 経営戦略及び中期経営計画(平成 28 年度～令和 2 年度)の進捗状況 |

について

〃 経営戦略及び中期経営計画(令和3年度～令和7年度)の策定について

(2) 日時 令和3年12月15日(書面による決議)

議案 評議員の選任について

(3) 日時 令和4年3月31日(書面による決議)

議案 理事の選任について

12 理事会の開催

令和3年度の理事会は次のとおりで、各議案とも原案どおり決議され、または承認されました。

(1) 日時 令和3年5月13日(書面による決議)

議案 令和2年度事業報告及び決算の承認について

〃 令和2年度に関する定時評議員会の招集について

報告 経営戦略及び中期経営計画(平成28年度～令和2年度)の進捗状況について

〃 定款第28条4項に定める理事の職務の執行状況について

(2) 日時 令和3年6月1日(書面による決議)

議案 代表理事の選定について

(3) 日時 令和3年11月12日

報告 令和3年度前期事業報告及び決算報告について

〃 定款第28条第4項に定める理事の職務の執行状況について

(4) 日時 令和3年12月13日(書面による決議)

議案 評議員選任に係る評議員会の招集について

(5) 日時 令和4年3月25日

議案 令和3年度補正収支予算について

〃 令和4年度事業計画及び収支予算について

(6) 日時 令和4年3月28日(書面による決議)

議案 理事の選任に係る評議員会の招集について

(資料)

令和 3 年度 公益目的事業 (実績)

1 主催事業

主催事業回数 34回、 延べ参加人員 3,236人

(1) 自然体験事業

実施回数 13回、延べ参加人員 338人

事業名	回数	人員	実施時期
森林体験学習	1	48	10月
自然体験登山・トレッキング	5	106	4月, 11月, 12月
星座教室、特別観望会	2	72	10月, 12月
農業、里山、山村体験	2	58	11月
スケッチ・写真撮影会	3	54	10月, 11月, 3月
合計	13	338	

(2) 青少年健全育成事業

実施回数 5回、延べ参加人員 348人

事業名	回数	人員	実施時期
こども村キャンプ	1	112	8月
親子体験 (昆虫等観察会)	1	30	7月
こども村スキー・雪遊び	3	206	12月, 3月
合計	5	348	

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴い、おんたけこども村キャンプの実施は1回のみ

(3) 健康増進支援事業

実施回数 16回、延べ参加人員 642人

事業名	回数	人員	実施時期
健康増進ウォーキング・トレラン教室	9	426	4月, 10月, 11月
山菜・茸採り体験リフレッシュプラン	3	73	10月
シニアスキー教室・健康増進スノーウォーキング	4	143	1月
合計	16	642	

(4) 体験館等の運営

参加人員 1, 908人

事業名	人員	実施時期
食の体験館	51	通年
木工・工芸体験館	21	〃
天文館	978	〃
クライミング体験	158	〃
間伐材を利用した木工体験出前講座	700	〃
合計	1,908	

2 支援事業

支援事業件数 1, 227件 人員 8, 830人

事業名	件数	人員	実施時期
野外活動・キャンプ指導・青少年健全育成	83	1,487	4～2月
環境保全・環境学習・体験学習	25	371	通年
登山・カヌー・自転車・ウォーキング・ランニング等スポーツ支援	606	3,451	〃
自然観察（天文・地質・気象）・植物観察	281	1,991	〃
森林浴・健康ウォーク	201	952	〃
絵画・写真・地域文化	31	578	〃
合計	1,227	8,830	